

Vol.15
The 37th
Business Report

第37期 株主通信

2009年4月1日から2010年3月31日まで

株主の皆さまへ	①
Fade in ダイコク電機最前線	⑤
●「MIRAIGATE2010」 ～ホールマネジメント革新、未来をつかみとるために～	
●DK-SISセミナー	
●名古屋証券取引所主催「名証IRセミナーin東京」に参加	
新製品情報	⑥
営業のご報告	⑦
セグメント別の状況	⑨
連結財務諸表	⑪
単独財務諸表	⑫
会社概要	⑬
株式情報	⑭



業界随一のネットワークを使った展開を活かし、市場の変化に合わせた価値を提供してまいります。

株主の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素より当社事業へのご理解と格別のご支援を賜り、誠にありがとうございます。

おかげさまで当期(2010年3月期)は、厳しい事業環境の中で、当初の予想を上回る業績を収めることができました。ここにその取り組み及び成果をご報告申し上げるとともに、今後の展開と成長に向けたビジョンについて、代表取締役社長 栢森雅勝よりご説明させていただきます。

代表取締役社長
栢 森 雅 勝

当期の事業環境と取り組み成果を振り返って

●パチンコ市場は稼働・粗利ともに前年並みの業績で推移

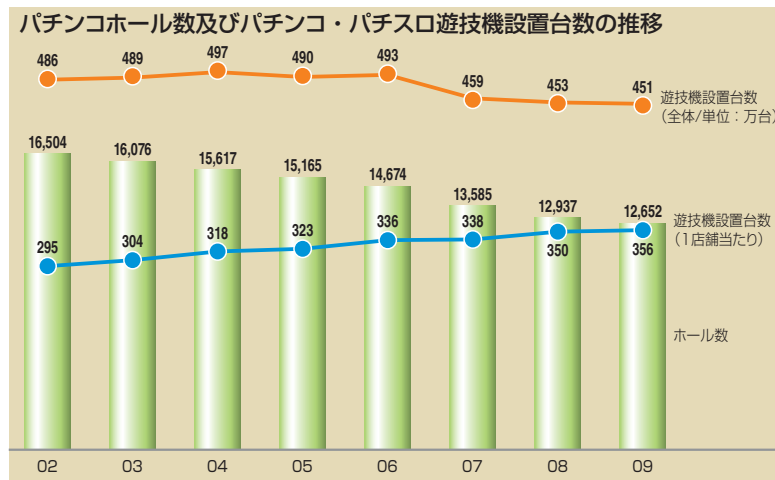
2009年のパチンコ業界は、前年と比べて遊技機の人気指標となる稼働時間は若干減少しましたが、利益の指標である

粗利はほぼ横這いとなりました。しかしながら、8月以降は稼働時間・粗利ともに前年を下回り、厳しい経済情勢の影響がパチンコ業界においても現れてまいりました。

パチンコホールの動きとしましては、新規出店の抑制が続



調査資料の出処：「DK-SIS白書2009」



調査資料の出処：「平成21年中における風俗関係事犯等について」

いたものの、閉店数が減ってきており、ホール数全体の減少傾向に落ち着きが現れております。設備については、既存店舗に対する投資が活発におこなわれ、特に1円パチンコ等の低貸玉営業を導入する店舗が増加しております。当社会員制情報提供サービス「DK-SIS」の直近データによりますと、低貸玉営業の導入率は全店舗の68%に達しており、その台数比率は20%にまで拡大しております。パチンコ遊技機の出荷台数については、7月まで好調でしたが、後半になってから一機種当たりの出荷台数が伸び悩む傾向が見られました。

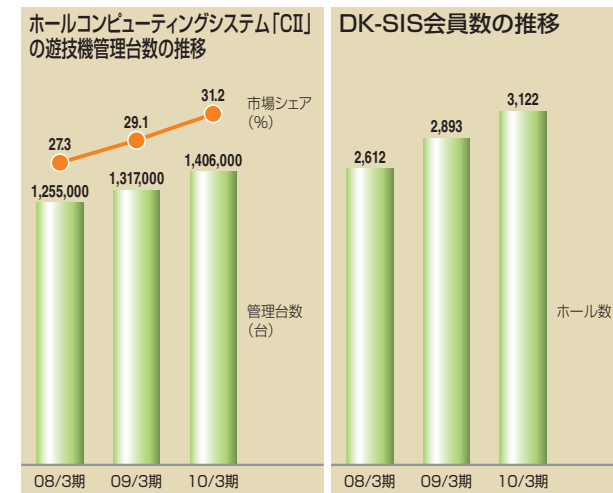
●製品販売後の付加価値提供に注力

このような事業環境のなか、当社は引き続き「DK-SIS」会員数を順調に拡大し、当期末現在で3,122会員・遊技機管理台数97万台・売上規模8兆円分のデータを保有するまでに至りました。また、ホールコンピューティングシステム「CⅡ」による遊技機管理台数は、当期末現在で1,406,000台・市場シェアの約31.2%にまで成長しました。

情報システム事業は、機器・システムの売り切りビジネスからの転換をはかり、販売後の付加価値提供に注力しております。昨年4月には、「MIRAIGATE(ミライゲート)」ネットワークを活用したパートナーズセンタを開設しました。パートナーズセンタは、迅速かつ確かなメンテナンスに対応するためのメンテナンスデスクと、ホールコンピューティングシステム「CⅡ」を有効活用するための支援窓口となるCⅡデスクから成り、これらホール支援サービスの強化によって、お客さまから高い評価をいただいております。

また、遊技中の利便性向上にこだわった台毎計数システム「楽pass」や、液晶ディスプレイに表示される充実したコンテンツで遊技を盛り上げる台毎データ表示機「BIGMO」、呼出ランプ「IL-A3」等の提供を通じて、ファンの楽しみを拡げる価値提供を追求しました。

制御システム事業は、従来から引き続き遊技機メーカーの



パートナーとして、ソフト・ハードの企画提案に努めると同時に、社内の業務改革を推進し、職場環境の改善による創造性・生産性の向上をはかりました。

●株式・金融市場に対して、正確な業界情報を提供

当期の連結業績については、期初の業績予想におきましては減収減益を見込んでおりましたが、ここに述べた取り組みの奏功により堅調に推移し、前年比でほぼ横ばいの業績を収めることができました。当期純利益は前期比33.4%の減少となりましたが、これは前期に子会社整理に伴う税金軽減約11億円があったことによります。

当社は株式・金融市場に対して、当社を取り巻く事業環境についての正確な情報を伝え、当業界に関する理解力・分析力の向上を促すべく、証券会社・銀行等の金融機関向けに「DK-SIS」による情報提供を開始しました。金融機関の皆さまに、正確でリアルタイムな情報をお届けすることで、パチンコ業界全体の動向についての無用な誤解が払拭され、信頼の向上に役立つものと考えております。

●価値情報ネットワークシステムの実現

ファン、ホール、遊技機メーカーに情報が流れる仕組みを実現する。

情報が流れることで、行動が変わる。
パチンコファン・ホール・メーカーを巻き込み、
業界全体の行動が変わればそれは変革になる。
ダイコク電機は、情報の流れを担って
いくことで変革の中心となる。



今後の取り組みと成長に向けたビジョン

●アミューズメントコンテンツ事業における収益化の見通し

情報システム事業・制御システム事業に続く3本目の柱として、ゲームソフトの開発を手掛けているアミューズメントコンテンツ事業については、当期まで営業損失の計上が続きましたが、足もとの状況としましては、コンシューマゲームによる収益化の見通しが立ってまいりました。

これは、海外メーカーから受託開発を行ったゲームソフトが北米のゲームショー「E3」の大賞にノミネートされるなど、当事業の開発力に対する評価が高まり、国内大手メーカーからの受託につながってきたことによるものです。現時点で年間を通しての受託が確定しており、今年度は堅調に推移するものと見込んでおります。

●多様化するホールへの提案、そして遊技機リユースへの関与

当社は引き続き、「情報」をキーワードに、ユニークかつオンリーワナな存在として成長性を確保してまいります。情報の提供は、人々の行動に変化を促し、市場に成長機会をもたらします。当社は、「DK-SIS」に代表される情報提供システムをより進化させ、サービスの質的向上をはかることで、遊技機メーカー・ホール・ファンの3者にメリットをもたらすユニークな存在となり、自らの価値を高めていきたいと考えております。

次期(2011年3月期)については、依然として先行き不透明な状況のなか、厳しい事業環境を予想しておりますが、市場の変化に合わせた価値の提供に努めてまいります。特にパチンコホールに対しては、システムやネットワークサービスを活用する支援活動を強化し、従前のビジネスモ

デルから多様化した営業形態への付加価値提案をおこなう必要があります。また、遊技機メーカーに対しては、廃棄物抑制や製造コスト低減を目的とした「リユース」の動向に、当社がどう関わることができるかという点がテーマになっていくと考えております。

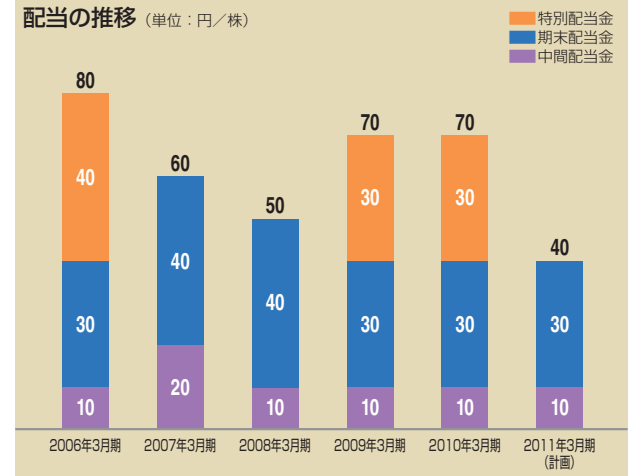
●新たな局面を迎える「MIRAIGATE」への注目・期待

当社は、株主の皆さまからのご期待とご支援にお応えしていく上で、安定的かつ継続的な配当の維持・充実を利益還元における基本方針としております。

当期の配当につきましては、上記方針に基づき、期初の計画による1株当たり年間配当40円に加え、業績に応じた特別配当として30円増配し、1株当たり70円(中間配当10円、期末配当60円)とさせていただきます。

次期配当につきましては、中間配当を1株当たり10円、期末配当を同30円として計画し、これに業績に応じた特別配当を検討させていただきます。

当社は、前期から当期にかけての実績の積み上げにより、財務的な基盤については着実に強化を果たすことができました。その点では、株主の皆さまに安心して投資していただける企業であると自負しております。また、パチンコホール向けの設備を提供する企業としては、他社にないネットワークを使った展開に最大の強みを持っており、これを次期以降さらに発揮させてまいります。次世代ブランド「MIRAIGATE」による営業活動も、新たな局面に入ってきておりますので、ぜひご注目・ご期待いただきたく存じます。今後とも当社事業への長期的なご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



(注)業績に応じて特別配当を実施しております。

Fade in ●ダイコク電機最前線

ダイコク電機展示会&セミナーを開催

●「MIRAIGATE2010」～ホールマネジメント革新、未来をつかみとるために～

2010年2月3日の名古屋会場を皮切りに福岡、東京、大阪の全国4会場、延べ6日間にわたり、展示会&セミナー「MIRAIGATE2010」を開催しました。

「MIRAIGATE2010」は、ホール業績向上のための「Always Partner」コーナーと、ファンの目線で開発した当社製品を展示する「Fan First」コーナーとに会場を分け、店舗マネジメント支援ツール「機種入替Pro.」や新データ分析ツール「ファン動向分析システム」及びファン向け台毎端末「楽pass II」、呼出ランプ「IL-A3」を新製品として出展しました。

今回の展示会では劇場型プレゼン方式を採用し、展示会場に入っただけ前にセミナー&プレゼンショーで「ファン動向分析システム」、「機種入替Pro.」の分析や活用方法を分かりやすく解説した結果、多くのお客さまにそれぞれの新製品について大いに興味を持っていただき、ホール経営にとって当社製品の必要性を感じていただけたと思います。

今後も、ダイコク電機らしい新しい視点での新製品を展開してまいりますので、どうぞご期待ください。

●DK-SISセミナー「現状を打ち破る未来型ホール戦略」

今年も展示会との合同開催のセミナーとなりました。今までのセミナーは、新しい遊技機の釘データ活用や応用的な計数管理、ホール内で情報公開等を活用したファンへのアプローチが主体となった内容が多かったのですが、今回は従来とは異なった内容で実施しました。

現在のパチンコ業界は、「1円パチンコを主体とした低貸玉営業の増加」「パチンコミドルタイプの低迷」「パチスロ5号機の復調傾向」「中古機流通制度の変化」など、様々な変化が常に起こっている状態です。そこで、これら多様な変化に対応するための業績管理として、「今までと何も変わらない管理手法からの脱却」をセミナーのテーマにしました。

「機種入替Pro.を活用した営業利益管理と遊技機活用の再考」と、「ファン動向分析を用いた自店ファンの実態把握」の2つを大きな軸とし、業績向上に繋がる2010年のホール戦略を解説しました。特に「機種入替Pro.」と「ファン動向分析システム」は、展示会場でもスタッフ連動で活用提案し、来場者から非常に高い評価をいただきました。

長らく経済不況のもと、ファンがホールに望む基準は厳しくなっていくと思われませんが、それ以上に、ホールが当社に期待する基準は高いはず。今後も、大きな期待を寄せられているという自負をもって、当社にしかできない情報発信を続けてまいります。

名古屋証券取引所主催「名証IRセミナーin東京」に参加

2010年3月9日(火)に東京都中央区の本証券会館にて開催された名古屋証券取引所主催の個人投資家向け企業説明会「名証IRセミナーin東京」に参加しました。

当社の説明には約300名の方にご参加いただき、社長の栢森雅勝から業界動向や事業内容、今後の戦略等の説明をさせていただきました。ご来場いただきました株主・投資家の皆さま、誠にありがとうございました。

今後も継続的にIR活動を行い、当社の知名度・認知度の向上に努めてまいります。



会場	来場者数(名)
名古屋	384
福岡	199
東京(2日間)	641
大阪(2日間)	457
合計	1,681



New Product ●新製品情報

店舗マネジメント支援ツール「機種入替Pro.」

ホールコンピュータは「売上総粗利」を管理するものですが、「機種入替Pro.」はそこに遊技台購入費等も考慮した「営業利益」を管理し、最大化することを目的として開発しました。

「機種入替Pro.」はDK-SISで培ったノウハウも組み込み、パチンコホールの営業利益に最も影響を与える遊技台購入費、つまり新台入替を徹底的にサポートします。

「新・機種貢献」「新台シミュレーション」「撤去機種選定」「店舗営業収支」等の12帳票で、それぞれのパチンコホールにとって効率の良い機種活用を実践していただくことができます。



新データ分析ツール「ファン動向分析システム」

「ファン動向分析システム」は、ホールコンピュータのデータだけではわからなかった遊技客の情報を車番認証システムである「Nシステム」を利用することで分析可能とした業界初のシステムです。

今まで把握することが困難だった日時毎の来店人数や滞在時間、来店回数等のデータを管理・分析することでファン動向という違った視点からの分析が可能になり、機種入替・イベント・チラシ等の効果測定や新しい営業戦略の策定にお役立ていただける画期的なシステムです。



ファン向け台毎端末「楽pass II」

1 大きな画面、大きな文字でわかりやすく遊技サポート

角度をつけることで業界最大級サイズの液晶表示部を実装。持玉数を正確に大きくリアル表示。操作ガイダンスも充実。新機能の出玉共有操作等も簡単にできます。

2 プレジャービジョン一体モデルもラインナップ

フルカラー液晶を活かしたビジュアル操作ガイダンスを新たに実装し、プレジャービジョンの便利機能をまるごと搭載。さらにわかりやすく、便利に遊技をサポートします。

3 おサイフケータイでスマートプレイ

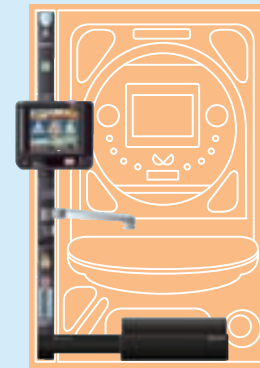
会員カードのかわりにおサイフケータイで貯玉・再プレイができます。また、盗難防止のためにIC持玉券の発券のロックも可能です。

4 薄型エアカーテンのオプション追加で快適遊技

省スペースでオプション追加できる薄型エアカーテン装置。「楽pass II」本体に簡単に装着可。喫煙者も嫌煙者も快適に遊技ができます。

5 他に類がない高精度・高防御力の安心セキュリティ

ファンの利便性を高めるとセキュリティガードが甘くなるという欠点を、ホールコンピュータ連動のリアル誤差チェックとシステム防御でカバー。ファンの便利とホールの安心を両立します。



「楽pass II」にはその他、玉こぼれがほとんどない新設計の受け皿部、ホールコンピュータで一括モードチェンジできる試し打ち機能、まだまだ紹介しきれないほどの工夫の数々が盛り込まれています。

当連結会計年度の取り組みと成果

当連結会計年度におけるわが国経済は、輸出は緩やかに増加し、企業収益は改善しつつありますが、雇用環境の改善は遅れ、物価は緩やかなデフレ状況にあるなど、依然として厳しい状況が続いております。

当社グループが携わるパチンコ業界におきましては、新規出店等の大型設備投資は引き続き低調でしたが、閉店等の件数も減り、全国の店舗数の減少傾向は落ち着きを見せてきております。また、1円パチンコ等の低貸玉営業は全国的に浸透し、優良店では、低貸玉営業においても差別化をはかる動きが見られました。一方、パチスロ遊技機では設置台数の減少が続いておりますが、安定した業績がホール経営企業から注目されつつあります。経済産業省の「特定サービス産業動態統計調査」によれば、前年同期比でパチンコホールの売上高は7月までは増加しておりましたが、8月からは減少に転じており、厳しい経済情勢の影響が現れつつあるものと思われまます。警察庁生活安全局「平成21年中における風俗関係事犯等について」によると、パチンコホール数は、平成20年に比べて285店舗減少し、12,652店舗となりました。また、遊技機設置台数はパチンコ遊技機が82,378台増加しましたが、パチスロ遊技機は101,597台減少し、合計19,265台減少の4,506,250台となりました。その結果1店舗当たりの遊技機設置台数は356.2台と平均で6.4台増加しております。

このような市場環境のなか、情報システム事業におきましては、低貸玉営業における差別化の動きに対し、「楽pass」や「BIGMO」等の店舗における活用提案を推進いたしました。制御システム事業におきましては、物作りの改革を目指して開発業務の品質向上と効率を追求し、遊技機のソフト、ハードの企画提案に努めました。

この結果、当連結会計年度の業績は、連結売上高518億57百万円(前期比0.8%減)、連結営業利益46億26百万円(同3.6%減)、連結経常利益49億3百万円(同1.8%減)となりました。連結当期純利益は23億47百万円(同33.4%減)と減少幅が大きくなりましたが、これは前期に子会社整理に伴う税金軽減があったことによりまます。

次期の見通し

顧客であるパチンコホールにおいては、低貸玉営業を導入している店舗数もすでに全店舗数の過半数を超え、低貸玉営業の導入に伴う設備投資の動きは落ち着くものと思われまます。また、遊技機市場は、環境対策や販売価格抑制からまますリユースが進むものと思われまます。

このような市場環境のなか、情報システム事業におきましては、売上高247億円(前期比3.5%減)を見込んでおりますが、今後MIRAIGATEネットワークの価値向上を進め、新たに導入いたしました「ファン動向分析システム」等を提案していくことにより、前期を上回るように努めて

まいります。制御システム事業におきましては、リユースが進むことによって新規の投入台数の減少が予想されることから、売上高195億円(同22.2%減)を見込んでおりますが、企画提案力の向上や開発機種数増により業績向上に努めてまいります。アミューズメントコンテンツ事業におきましては、実績に基づく信頼向上により、安定した受託開発を目指し、売上高18億円(同44.3%増)を見込んでおります。

この結果、連結売上高は460億円(同11.3%減)、連結営業利益は29億円(同37.3%減)、連結経常利益は30億円(同38.8%減)、連結当期純利益は12億円(同48.9%減)を見込んでおります。

業績の見通しに関する注意事項

本資料中に記載されている市場予測や業績見通しは、当社の経営陣が現在有効な情報に基づき判断したもので、その実現には潜在的リスクや不確実性を含んでおり、さらに業績に影響を与える要因はこれに限定されるものではありません。従いまして、諸要因の変化により実際の業績は記載事項と大きく異なる結果となる可能性があることをあらかじめご承知おきください。

対処すべき課題

<情報システム事業>

MIRAIGATEシステムとネットワークの機能向上をはかり、顧客であるホール経営企業に向けての新しい時代の付加価値を確立します。

1. MIRAIGATEシステムとネットワークサービスの強化をはかり、C II 導入店舗数の更なる拡大を目指します。
2. C II 顧客に対し、システムやネットワークサービスを活用する支援活動を強化し、製品販売後の付加価値提供を目指します。

<制御システム事業>

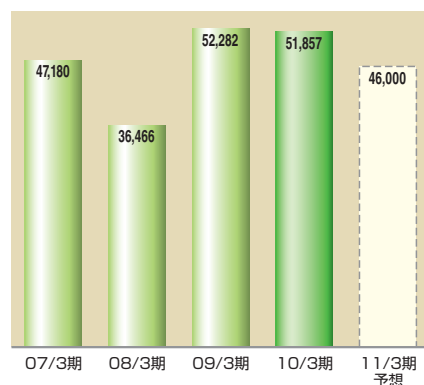
1. ファンが喜ぶ企画品質の向上を目指します。
2. リユース時代に対応したビジネスモデルの確立を目指します。

<アミューズメントコンテンツ事業>

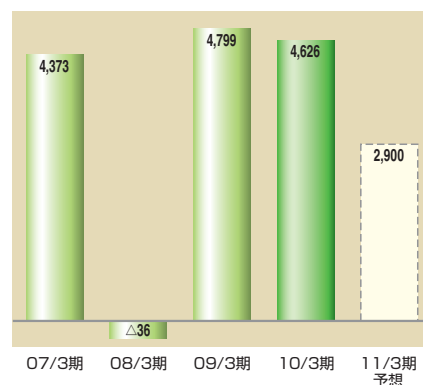
企画力と開発品質を向上させることで、大手ゲーム会社との信頼を強化し、事業を拡大していくことを目指します。

主要財務データ (単位: 百万円) Key Financial Data

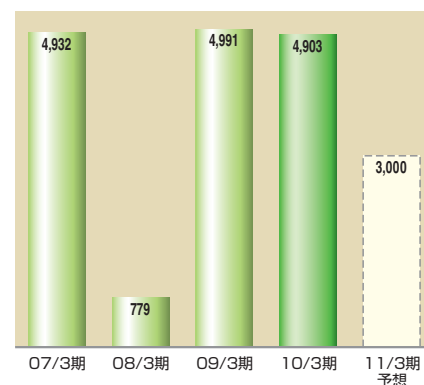
売上高



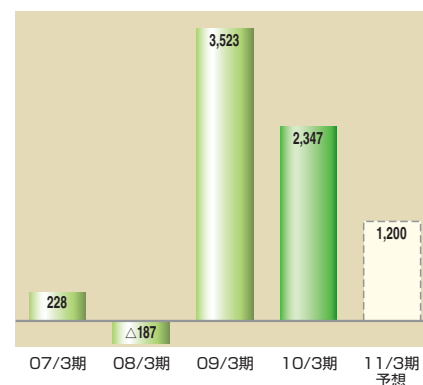
営業利益又は損失(△)



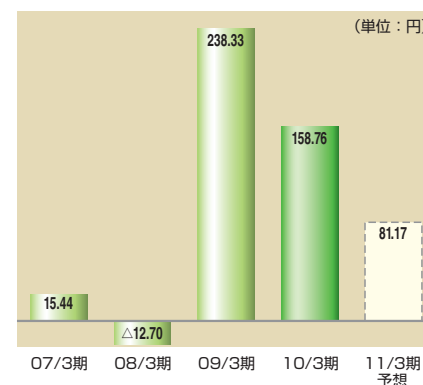
経常利益



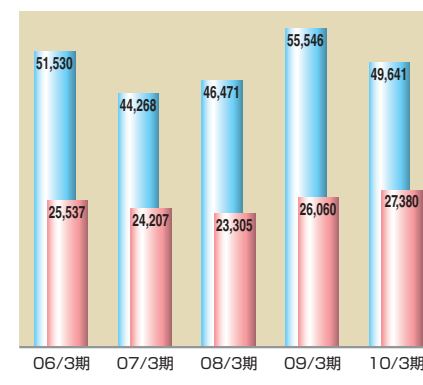
当期純利益又は純損失(△)



1株当たり当期純利益又は純損失(△)



総資産 / 純資産



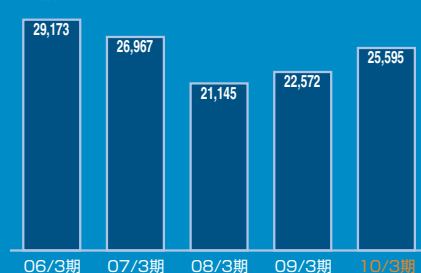
売上比率
49.3%

情報システム事業

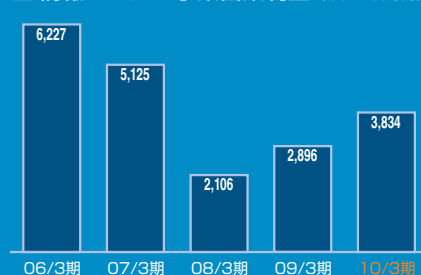
当連結会計年度は、4月に開設したMIRAIGATEネットワークを活用したパートナーズセンタが高い評価を受け、ホールコンピューティングシステム「CII」の導入店舗が増加しました。パートナーズセンタは、迅速かつ的確なメンテナンスに対応するためのメンテナンスデスクと、「CII」を有効活用するための支援窓口となるCIIデスクから成り、ホール支援サービスの強化に努めました。また、ファンの利便性向上を追求した台毎計数システム「楽pass」、コンテンツ表示を一層充実させた台毎データ表示機「BiGMO」、また11月に投入しました呼出ランプ「IL-A3」の導入が順調に進みました。

この結果、当事業の売上高は255億95百万円(前期比13.4%増)、営業利益38億34百万円(同32.4%増)と増収増益になりました。

■ 情報システム事業売上高 (単位: 百万円)



■ 情報システム事業営業利益 (単位: 百万円)



台毎データ表示機「BiGMO」

今までの呼出ランプの概念を変える台毎データ表示機「BiGMO」。業界最大10.4インチ液晶で、ホール内のイメージを大きく変えるだけでなく、状況に応じてファンが見たいデータを、「どデカ表現」でわかりやすく伝え、遊技しているファンの、ドキドキ感、ワクワク感を盛りたてます。

さらには、業界初AC(遊びコミュニケーション)機能を搭載し、「データニュース」や「パチンコ講座」など多彩な情報をファンに直接語りかけます。



呼出ランプ「IL-A3」

業界最大のフルドット自由表示領域をもつ呼出ランプ「IL-A3」は、その機種に合った表示を自動でできるだけでなく、遊技台の稼働・非稼働に関わらず常に最適データを自動切替表示できるインテリジェントランプです。

ボタンを押さなくても詳細データを表示できるため、ボタン操作が苦手な年配層に操作することなく常に最適な遊技台データを提供することができます。



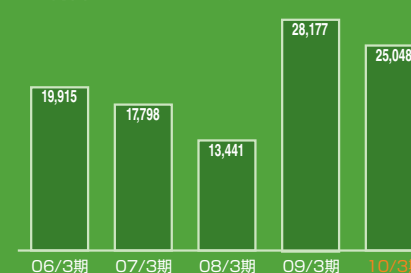
売上比率
48.3%

制御システム事業

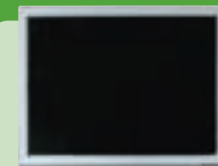
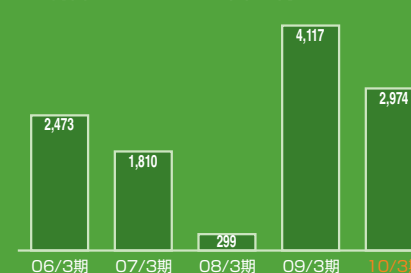
当連結会計年度は、遊技機市場において市場環境の厳しさが増し、多くの遊技機において販売台数が伸び悩む状況のなか、当事業は、遊技機のソフト、ハードの企画提案に努めたことにより1機種当たりの販売台数が増加しました。しかしながら、年間の販売機種数は減少となりました。

この結果、当事業の売上高は250億48百万円(前期比11.1%減)、営業利益29億74百万円(同27.8%減)となりました。

■ 制御システム事業売上高 (単位: 百万円)



■ 制御システム事業営業利益 (単位: 百万円)



制御ユニット

基本動作をつかさどるハードウェアとそれに搭載されるプログラムから構成され、パチンコ遊技機の心臓部といえます。



表示ユニット

パチンコ遊技機のゲーム内容を表現する部分で、ハードウェアとそれに搭載されるプログラムから構成されます。



商品(部品)

パチンコ遊技機に使用される液晶パネル、スイッチ、モーター等のオートメーションパーツの仕入れ販売をしております。



売上比率
2.4%

アミューズメントコンテンツ事業

当連結会計年度は、コンシューマゲームにおいて、海外メーカーから受託開発を行ったゲームソフトが北米のゲームショーであるE3の大賞にノミネートされるなど、開発力に対して評価が高まり、国内大手メーカーからの受託に繋がりました。携帯コンテンツは、依然厳しい状況が続いておりますが、mixiサイトにソーシャルアプリ「ミクねこ」を12月に市場投入し、短期間で多くの会員を集め高い評価を得ました。

この結果、当事業の売上高は12億47百万円(前期比19.5%減)、営業損失2億22百万円(同9.0%減)となりました。

連結財務諸表

(単位:百万円、百万円未満は切捨て)

連結貸借対照表(要旨)

科目	当連結会計年度 2010年3月31日現在	前連結会計年度 2009年3月31日現在
資産の部		
流動資産	34,582	39,931
固定資産	15,058	15,614
有形固定資産	8,600	6,905
無形固定資産	1,487	1,312
投資その他の資産	4,970	7,396
繰延資産	—	0
資産合計	49,641	55,546
負債の部		
流動負債	20,915	27,811
固定負債	1,345	1,674
負債合計	22,260	29,485
純資産の部		
株主資本	27,326	26,014
資本金	674	674
資本剰余金	680	680
利益剰余金	25,973	24,660
自己株式	△0	△0
評価・換算差額等	4	3
少数株主持分	49	41
純資産合計	27,380	26,060
負債純資産合計	49,641	55,546

連結株主資本等変動計算書(要旨)

当連結会計年度 2009年4月1日から2010年3月31日まで	株主資本					評価・換算差額等 その他有価証券 評価差額金	少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計			
2009年3月31日残高	674	680	24,660	△0	26,014	3	41	26,060
連結会計年度中の変動額								
剰余金の配当	—	—	△1,034	—	△1,034	—	—	△1,034
当期純利益	—	—	2,347	—	2,347	—	—	2,347
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)	—	—	—	—	—	0	7	8
連結会計年度中の変動額合計	—	—	1,312	—	1,312	0	7	1,320
2010年3月31日残高	674	680	25,973	△0	27,326	4	49	27,380

連結損益計算書(要旨)

科目	当連結会計年度 2009年4月1日から 2010年3月31日まで	前連結会計年度 2008年4月1日から 2009年3月31日まで
売上高	51,857	52,282
売上原価	35,705	36,466
売上総利益	16,152	15,815
延払販売未実現利益控除	—	—
延払販売未実現利益戻入	15	31
差引売上総利益	16,167	15,847
販売費及び一般管理費	11,541	11,047
営業利益	4,626	4,799
営業外収益	402	348
営業外費用	124	156
経常利益	4,903	4,991
特別利益	16	24
特別損失	147	229
税金等調整前当期純利益	4,772	4,786
法人税、住民税及び事業税	2,431	1,233
法人税等調整額	△12	57
少数株主利益又は少数株主損失(△)	7	△27
当期純利益	2,347	3,523

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

科目	当連結会計年度 2009年4月1日から 2010年3月31日まで	前連結会計年度 2008年4月1日から 2009年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,079	3,927
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,416	△1,171
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,895	△1,433
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	△10
現金及び現金同等物の増加額	768	1,310
現金及び現金同等物の期首残高	15,658	14,347
現金及び現金同等物の期末残高	16,426	15,658

単独財務諸表

(単位:百万円、百万円未満は切捨て)

貸借対照表(要旨)

科目	当事業年度 2010年3月31日現在	前事業年度 2009年3月31日現在
資産の部		
流動資産	32,655	38,611
固定資産	15,646	16,805
有形固定資産	8,098	6,494
無形固定資産	1,452	1,268
投資その他の資産	6,094	9,042
資産合計	48,301	55,417
負債の部		
流動負債	20,168	26,844
固定負債	1,216	1,556
負債合計	21,385	28,400
純資産の部		
株主資本	26,911	27,012
資本金	674	674
資本剰余金	680	680
利益剰余金	25,557	25,659
自己株式	△0	△0
評価・換算差額等	4	3
純資産合計	26,916	27,016
負債純資産合計	48,301	55,417

損益計算書(要旨)

科目	当事業年度 2009年4月1日から 2010年3月31日まで	前事業年度 2008年4月1日から 2009年3月31日まで
売上高	49,145	50,165
売上原価	34,022	35,234
売上総利益	15,122	14,931
延払販売未実現利益控除	—	—
延払販売未実現利益戻入	15	31
差引売上総利益	15,137	14,963
販売費及び一般管理費	10,044	9,867
営業利益	5,093	5,095
営業外収益	566	538
営業外費用	104	114
経常利益	5,556	5,518
特別利益	25	17
特別損失	2,329	629
税引前当期純利益	3,253	4,907
法人税、住民税及び事業税	2,321	1,173
法人税等調整額	△1	△24
当期純利益	933	3,758

株主資本等変動計算書(要旨)

当事業年度 2009年4月1日から2010年3月31日まで	株主資本							評価・換算差額等 その他有価証券 評価差額金	純資産合計	
	資本金	資本剰余金 資本準備金	利益剰余金 利益準備金	利益剰余金 その他利益剰余金 別途積立金		自己株式	株主資本合計			
2009年3月31日残高	674	680	30	20,000	5,629	25,659	△0	27,012	3	27,016
事業年度中の変動額										
剰余金の配当	—	—	—	—	△1,034	△1,034	—	△1,034	—	△1,034
当期純利益	—	—	—	—	933	933	—	933	—	933
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額)	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0
事業年度中の変動額合計	—	—	—	—	△101	△101	—	△101	0	△100
2010年3月31日残高	674	680	30	20,000	5,527	25,557	△0	26,911	4	26,916

会社概要 (2010年6月29日現在)

商号 ダイコク電機株式会社
DAIKOKU DENKI CO., LTD.

創業 1964年12月

設立 1973年 7月

資本金 6億7千4百万円
(発行済株式総数 14,783,900株)

本社 名古屋市中村区那古野一丁目47番1号
名古屋国際センタービル2階

従業員数 (単独)442名 (連結)672名
(2010年3月31日現在)

事業内容 パチンコホール向けコンピュータシステムの開発・製造・販売
パチンコ遊技機用ユニット・パチスロ遊技機の開発・製造・販売

役員

代表取締役社長	栢森 雅勝	取締役	國保 徳丸
代表取締役副社長	栢森 秀行	取締役	足立 芳寛
代表取締役専務	栢森 健	常勤監査役	伊東 幹夫
常務取締役	岩根 節雄	監査役	田中正雄
取締役	橋本 忠巳	監査役	敷田 稔
取締役	丹羽 時重	監査役	村橋 泰志
取締役	根本 弘	監査役	田島 和憲

(注) 1. 取締役 國保徳丸氏、足立芳寛氏は社外取締役であります。
2. 監査役 田中正雄氏、敷田稔氏、村橋泰志氏、田島和憲氏は社外監査役であります。

事業所一覧

本社	〒450-8640 名古屋市中村区那古野一丁目47番1号 名古屋国際センタービル TEL(052)581-7111(代表)	春日井事業所	〒480-0304 春日井市神屋町1番26 TEL(0568)88-7771
本部事業所	〒480-0395 春日井市坂下町1丁目875 TEL(0568)88-7111	TOKYO デザインスタジオ	〒164-0012 東京都中野区本町一丁目32番2号 ハーモニータワー
高蔵寺事業所	〒487-0014 春日井市気噴町一丁目2番地 TEL(0568)51-7111		

拠点一覧

東日本支店	〒110-0005 東京都台東区上野七丁目2番10号 上野駅前第一生命ビル	中部支店	〒480-0304 春日井市神屋町1番26
・茨城営業所	〒305-0032 つくば市竹園二丁目2番地4 第2-ISSEIビル	・金沢営業所	〒920-0027 金沢市駅西新町3丁目9番26号
・北関東営業所	〒330-6022 さいたま市中央区新都心11番地2 明治安田生命さいたま新都心L.A.タワー	・松本営業所	〒390-0852 松本市大字島立399番地1 滴水ビル
・新潟営業所	〒950-0925 新潟市中央区弁天橋通1丁目2番39号 VMビルディング	西日本支店	〒532-0003 大阪市淀川区宮原四丁目1番14号 住友生命新大阪ビル
・札幌営業所	〒001-0011 札幌市北区北十一条西四丁目1番地44 ベルエアプラザ	・岡山営業所	〒700-0927 岡山市北区西古松一丁目1番26号 オム第IIビル
・盛岡営業所	〒020-0045 盛岡市盛岡駅西通二丁目9番1号 マリオス	・高松営業所	〒761-8071 高松市伏石町2130番地1 丸忠IIIビル
・仙台営業所	〒980-0014 仙台市青葉区本町二丁目2番3号 鹿島広業ビル	・広島営業所	〒730-0004 広島市中区東白島町14番15号 NTTクレド白島ビル
		九州支店	〒812-0016 福岡市博多区博多駅南二丁目1番9号 ヤマエ博多駅南ビル
		・宮崎営業所	〒880-0801 宮崎市老松一丁目3番3号 松屋ビル

関係会社

連結子会社 ●DIXEO株式会社、元気株式会社、元気モバイル株式会社、DAXEL株式会社、DO株式会社
関連会社 ●株式会社ラビス



本社



本部事業所

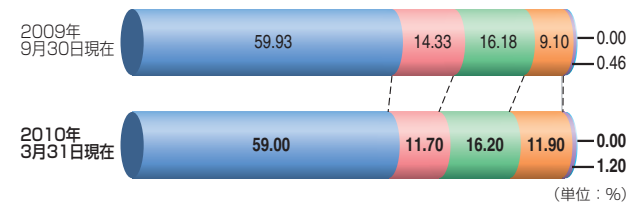
株式情報 (2010年3月31日現在)

株式状況

発行可能株式総数.....66,747,000株
発行済株式総数.....14,783,900株
株主数.....3,793名

所有者別株式分布状況

	2010年3月31日現在		2009年9月30日現在	
●個人・その他	8,723,539株	3,572名	8,859,786株	3,259名
●金融機関	1,727,100株	28名	2,117,800株	28名
●その他国内法人	2,392,100株	61名	2,392,600株	62名
●外国人	1,760,605株	99名	1,345,003株	96名
●証券会社	180,360株	32名	68,515株	20名
●自己名義株式	196株	1名	196株	1名
合計	14,783,900株	3,793名	14,783,900株	3,466名



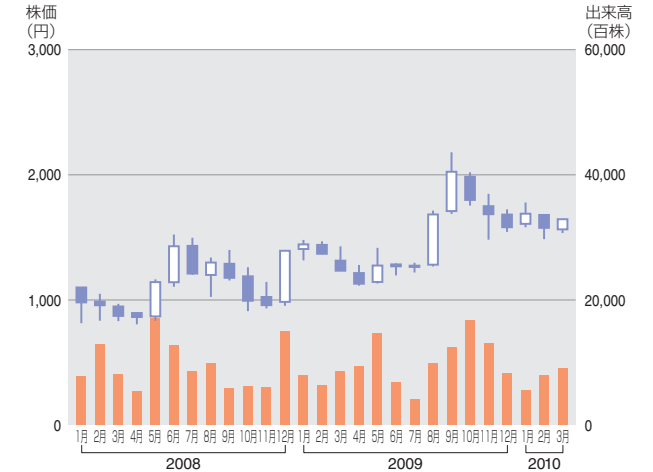
持株数別株式分布状況

	2010年3月31日現在		2009年9月30日現在	
1単元未満	582株	73名	518株	62名
1単元以上5単元未満	398,126株	2,383名	365,206株	2,183名
5単元以上10単元未満	260,462株	444名	230,550株	393名
10単元以上50単元未満	1,186,563株	708名	1,140,790株	667名
50単元以上100単元未満	412,670株	64名	370,374株	58名
100単元以上500単元未満	1,909,551株	93名	1,645,316株	79名
500単元以上1,000単元未満	716,600株	11名	459,500株	7名
1,000単元以上5,000単元未満	2,006,250株	7名	1,296,850株	5名
5,000単元以上	7,892,900株	9名	9,274,600株	11名
自己名義株式	196株	1名	196株	1名
合計	14,783,900株	3,793名	14,783,900株	3,466名

大株主

株主名	持株数(株)	出資比率(%)
栢森 雅勝	1,889,450	12.78
栢森 健	1,772,200	11.98
栢森 寿恵	1,108,950	7.50
財団法人栢森情報科学振興財団	750,000	5.07
栢森 秀行	739,100	4.99
栢森 新治	737,150	4.98
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	648,700	4.38
栢森 美智子	626,000	4.23
栢森 啓	420,000	2.84
メロンバンク トリーティー クライアンス オムニバス	349,300	2.36
ダイコク電機従業員持株会	308,500	2.08
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	292,200	1.97
株式会社みずほ銀行	150,000	1.01
ノーザントラスト カパニ- エイブイアシー リ フィレティ ファンス	116,400	0.78
ステート ストリート バンク アンド トラストカンパニー 505224	92,800	0.62
資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)	84,800	0.57
メロバンク エイブイアシー リ フィレティ ファンス	76,000	0.51
メロバンク ニューヨークシティ信託銀行株式会社(信託口)	64,300	0.43
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー	62,300	0.42
アールピーシー デカア インバスター サービス トラストバンク レンディング アカウント	61,400	0.41
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口1)	58,200	0.39

株価及び出来高の推移



株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日
定時株主総会	6月下旬
基準日	定時株主総会 3月31日 期末配当 3月31日 中間配当 9月30日 その他必要があるときは、あらかじめ公告いたします。
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱場所	〒460-8685 名古屋市中区栄三丁目15番33号 中央三井信託銀行株式会社 名古屋支店証券代行部
郵便物送付先 電話照会先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 TEL.0120-78-2031(フリーダイヤル) 取次事務は中央三井信託銀行株式会社の 本店及び全国各支店ならびに日本証券代 行株式会社の本店及び全国各支店で行 っております。
公告方法	電子公告によります。ただし、やむを得ない 事由によって電子公告ができない場合は、 日本経済新聞に掲載いたします。
公告のホームページアドレス	http://www.daikoku.co.jp/

✉ IR情報メール配信サービス

当社は、投資家の皆さまに対して電子メールによるIR情報配信サービスを提供しております。ご登録いただいた方々に当社ホームページ(<http://www.daikoku.co.jp>)に新しい情報が掲載されたことをお知らせします。

ご希望の株主さまは、当社ホームページにアクセスした後、「IRメール配信で登録」ボタン、又はディア・ネットサービスホームページ(<http://www.dirnet.jp/6430>)から、簡単にご登録(無料)いただけます。



〒450-8640 名古屋市中村区那古野一丁目47番1号 名古屋国際センタービル2階

TEL(052)581-7111(代表)

ホームページ <http://www.daikoku.co.jp>

「配当金計算書」について

配当金支払いの際送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付書類としてご使用いただくことができます。なお、配当金領収証にて配当金をお受取りの株主様につきましても、平成22年より配当支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただいております。

* 確定申告をなされる株主様は、大切に保管ください。

株主さまのご住所・お名前に関する文字についてのご案内

株券電子化実施にとまない、株主さまのご住所・お名前の文字に、株式会社証券保管振替機構(ほふり)が振替制度で指定していない漢字等が含まれている場合は、その全部又は一部をほふりが指定した文字又はカタカナに変換して、株主名簿にご登録いたしております。このため、株主さまにご送付する通知物の宛先が、ほふりが指定した文字に置換えられる場合がありますのでご了承ください。株主さまのご住所・お名前として登録されている文字については、お取引の証券会社等にお問い合わせください。

株券電子化後の配当金受取方法のお取扱い

株券電子化により、従来の配当金振込口座のご指定方法に加えて、あらかじめ登録した一つの預金口座で株主さまの保有しているすべての銘柄の配当金のお受取りや、証券会社の口座でも配当金のお受取りが可能となります。確実に配当金をお受取りいただくためにも、これらの振込みによる配当金のお受取りをお勧めします。詳しくはお取引証券会社等にお問い合わせください。

